

この機に禁煙に挑戦を！

本年2月から国内に拡散し、現在既に全県で約7万5千人の感染が確認されている新型コロナウイルスは未だに終息は見え、特に喫煙者が感染すると重症化するリスクは上昇します。

愛煙家の皆さんには、このウイルス禍を機会に是非、禁煙に挑戦してください！

2020.9.4北國新聞

北 國 新 聞 (夕刊) 新聞定価 朝夕刊月ぎめ 本体価格 3,738円 (税込み 4,037円) 夕刊1部売り(税込み) 50円 第3種郵便物認可

新型コロナウイルス感染拡大が続く中、石川県内では「をやめる人や禁煙化する施設が増えている。喫煙者は重症化しやすいとの統計を知って50年吸い続けたたばこをすっぱり断った人あり、休業を境に全室禁煙化に踏み切った温泉旅館あり。4月の改正健康増進法施行によって屋内は原則たばこ不可となったことも追い風に、啓発団体は「この機に禁煙に挑戦を」と呼び掛けを強めている。

「初めは口さみしくて方をかんざりしていたが、半年たった今は全く吸いたいと思わん」。白山市白峰の永井旅館の番頭、吉村進さん(72)は50年来の喫煙者で、多い日は30本を吸っていた。だがコロナが広がり始めた2月、健康への不安から、一念発起して吸うのをやめた。

NPO法人「禁煙ねっと石川」理事で友人の福田太睦さん(89)には会うたびに禁煙を説かれ、「いじらしい」と思っていた。だが今では「飯はうまいし、便秘も治った。『やめろ』と言いつけてくれてありがたしい」と感謝を口にす。福田さんも「コロナ以降、禁煙の勧めを真剣に聞いてくれる人が増えた」と喜ぶ。

加賀市山中温泉の旅館「たわや」は、コロナによる臨時休業が明けた6月から全客室で「たばこを断

県内愛煙家「重症化しやすい」受け

コロナで禁煙広がる



4月から閉鎖されている屋外喫煙所
—金沢市の県地場産業振興センター—

喫煙歴50年もすっぱり NPO団体「勧め聞く人増えた」

り」とした。田向公一常務は「告知しているのに苦情も全くなくむしろ好評だ」と手応えを語る。

休業前は全室でたばこが吸えた。客が禁煙室を希望すれば事前にスプレーで消

臭していたが、壁や畳に残る臭いは田向常務自身、気になっていた。コロナで閉鎖された4月半の休みがきっかけで、「臭いを消せる、また禁煙化を

施設は「密」避け 切り替え

「3密」リスクが高い喫煙所を休止する施設も相次ぐ。金沢市の県地場産業振興センターでは、屋外喫煙所を4月から閉鎖している。イオンモール新小松(小松市)でも春から館内3カ所の喫煙所を休止。屋外の専用スペースで吸うよう案内している。

禁煙ねっと石川は4日までに、「新型コロナウイルスにおける禁煙の重要性」と題した声明文をホームページに掲出した。喫煙は重症化のリスクと死亡率を高めるとのデータを示し、禁煙を強く勧める内容となっている。

遠藤将光理事長は、喫煙による免疫や肺機能の低下が重症化をもたらすだけでなく、たばこを持った指を口元へ運ぶ動作も感染リスクを高めると指摘し、「自分や周りの人の健康、ひいては地域社会を守るため、喫煙者はぜひ真剣に禁煙を考えてほしい」と訴えた。